

令和4年度学生・教職員による教育懇談会
実施報告【大学院生（文系）】

1. 開催日時 12月12日（月）17：00～18：30
2. 開催形態 Zoomによる開催
3. 主催 大学教育推進機構及び大学教育推進機構全学評価・FD委員会
4. 出席者

大学院生：前期課程7名、後期課程7名、専門職学位課程1名

教職員：教員11名

（大村大学教育推進機構長、寺内大学教育推進機構副機構長、菊池教養教育院長、横小路大学教育研究センター長、柏木国際コミュニケーションセンター長、河合グローバル教育センター長、北村キャリアセンター長、青木委員、近田委員、葛城委員、大山委員）

職員：4名（学務部事務職員）

5. 懇談内容

大村機構長から開催にあたっての挨拶、横小路センター長から懇談会の流れについての説明後、4グループに分かれて懇談を行った。

パート1：入学・進学時のサポートについて

質問1：大学院に入学・進学する際に戸惑ったことや困ったことはありませんでしたか。

（関連ワード：履修ガイダンス、研究室・指導教員の決定など）

- ・内部進学のため、大きく困ったことはない。【同様の意見複数有】
- ・外部からの入学であるが、コロナ禍の影響のためか、入学前に希望する指導教員との連絡に苦労した。後輩も同様の状況であったようなので、大学としてサポートがあれば良かった印象がある。
- ・入学の際に、研究科の入学手続き及び研究科内のプログラムへの所属の手続きの2種類の手続きがあったが、事前の案内文書がそれぞれ異なる内容の記載があったりしたため、手続きに苦労した。また、入学時ガイダンスの案内の連絡がなかったため出席することができなかった。
- ・合格時期は研究科内の他のコースに比べて早かったが、入学手続き関係書類の到着が他のコースに比べて遅く、大学から連絡がないことに不安になった印象がある。
- ・コロナ流行開始時期で大学に入構できない時に大学院入試の準備を行う必要があり、必要書類の入手等に少し苦労した。指導教員の決定の連絡が、事前に無く、入学ガイダンス時だった。
- ・2020年10月入学だが、コロナ禍の影響なのか学生用アカウントが履修登録期間にな

っても配付されず、不安になった。

- 外部からの入学だが、入学時ガイダンスの説明により、履修登録等に関して特段困ることはなかった。
- 外部からの入学だが、特段困ることはなかった。
- 内部進学のため、大きく困ったことはない。所属研究科では進学者の割合が少ないため、情報交換できる友人等があまりいなかった。
- 留学生だが、指導教員を探す際に、HP より情報収集を行ったが、苦勞した印象がある。
- 2年前の前期課程入学時は、コロナ禍の影響か入学時ガイダンスが開催されなかった。学生便覧等により自主的に履修等の情報を収集する必要があった。
- 研究生を経て、後期課程に入学したが、指導教員に紹介してもらった先輩に色々とアドバイスをもらった。
- 社会人経験を経て大学院に入学したが、指導教員等のサポートもあり、大きく困ったことはなかった。

パート2：大学院での履修や学修環境について

質問2：これまで計画的、体系的な履修ができていますか。

（関連ワード：カリキュラム、ナンバリング、クォーター制、GPA など）

- 大学院では学部と違い、所属専攻の授業科目のみ履修が可能（他専攻の授業は履修不可、聴講可）である。また、友人が教員免許を取得する際に、他専攻の授業を履修する必要があるが、その際の手続きに苦勞したと聞いている。もう少し柔軟なカリキュラムだと助かる。
- 所属のプログラムは、全て英語による授業であるが、授業の種類も豊富なため、概ね満足している。興味がある授業内容であるが、英語力に自信がなく、履修を断念した科目もある。
- 所属のコースが、短期間で修了できるコースのため、授業が詰め込み過ぎの印象があるが、概ね満足している。
- 履修科目の選択に関して、指導教員からの助言もあり、計画的に履修ができた。
- 他研究科開講の授業の履修も可能であり、体系的に履修ができている印象がある。
- 前期課程必修科目の成績が一定以上であれば、博士論文の提出要件を満たすことができる。

質問3：これまでの研究（学修）活動は順調に進んでいますか。

（関連ワード：研究室、ゼミ、研究指導、学会発表、論文執筆など）

- 論文執筆の進捗は少し遅れているが、今後取り組みたいと考えている。
- ゼミは時間割に配置されているが、実際、授業は行われていない状況である。論文執筆に関する指導についても個人的には、少ない印象である。

- 所属しているプログラム内においても、指導教員によってゼミ等の指導の頻度が異なる印象がある。
- 研究指導の内容に満足しており、また海外での学会発表に出席する機会も設けてくれている。
- 2年前のコロナが流行開始当初は、Zoom 等が十分普及しておらず、研究指導等において、とまどいがあった。Zoom 等の普及後は、むしろコロナ禍前に比べて、指導教員の個別指導の機会を得ることができた。コロナ禍においては、学会はオンラインによる開催が中心であった。旅費等がかからない等費用面のメリットがあったが、学会後に人脈の構築する等の活動が制限されるデメリットもあった。
- 指導教員との個別指導は、オンラインの方が議論しやすく、数名の学生が出席するゼミの際は、対面形式の方が議論しやすい印象がある。
- コロナ禍においては、学会はオンラインによる開催が中心であったが、むしろ参加するのが容易になったので、個人的には良かった。留学生だが、論文執筆に係る日本語のチェックは指導教員に協力していただいた。
- オンライン開催による学会の際は、費用面でのメリットに加えて、幅広い参加者からの意見をもらえる機会があったのが良かった。
- 学部在学時から現在（後期課程）まで、研究テーマが一貫して変わっていないため、比較的論文執筆に関しては余裕がある。後期課程進学時に研究テーマが変更している学生は、苦労している印象がある。指導教員から勧められた学会において、発表する機会があった。指導教員の指導学生が多く、忙しそうな印象があるため、研究指導の依頼を躊躇してしまうことがある。
- 博士論文の要件に関しては、特定の基準はなく、学生によって個人差がある印象を持っている。指導教員が多忙なため、研究指導の依頼を躊躇してしまうことがある。その際は、研究室の先輩・OB とのネットワークを活用している。
- 入学時に指導教員と相談の上、研究計画を作成したが、進捗が少し遅れている状況である。ゼミの所属学生が多いため、希望の時期にゼミ内の発表ができないことがある。

質問4：神戸大学の学修・研究環境を十分に活用していますか。

（関連ワード：教室環境、図書館、電子ジャーナル、TA・SA、無線 LAN など）

- 電子ジャーナルは充実している印象がある。研究室の暖房機器があまり効果がないことに困った。
- 電子ジャーナルは充実している印象がある。
- 一部（博士後期課程）の院生研究室において、プリンターの未設置・Wifi 環境が充実されていない等の状況である。
- 研究室とは別に、オンライン会議等で発言しても差し支えない部屋があれば助かる。TA 業務に関しては、いい経験を積むことができ満足している。

- データ収集のためのシステムの利用希望者が多くて、なかなか予約がとれない。また、システム内のデータベースが更新されておらず、希望しているデータの収集ができなかった。
- 図書館を通じて必要な文献を参照することが可能だった。
- 電子ジャーナルが充実していない印象があるが、必要な文献は、図書館を通じて参照することが可能だった。研究のための調査を行う際に、質問表等を作成するサービスが便利だった。
- 図書館では、先行研究に関する文献の参照に利用することが多かった。
- TA 業務は、業務時間内に作業が終わらず、時間外の労働が生じることが多い。他研究科授業を履修できる等、総合大学のメリットを感じられる。
- 他研究科授業を履修できる等、総合大学のメリットを感じられることに満足している。
- 修士論文執筆時に学内の英語校閲サービスを利用したが、大変助かった。
- 留学生に、学位論文執筆に限り日本語のサポートのためにチューターが配属されているが、学位論文以外にも範囲を広げてほしい。研究活動のため移動に学割を利用することが多いため、学割の使用回数の上限を引き上げてほしい。ネットワーク(wifi)環境の強化、一部の教室内(黒板がはがれている、プロジェクターの接続がHDMIに未対応等)の環境を整備してほしい。図書館主催のセミナー(論文検索方法等)をオンデマンドで閲覧できるようにしてほしい。

パート3：進路について

質問5：留学経験や今後の留学予定はありますか。

(関連ワード：交換留学、ダブルディグリープログラム、海外学術調査など)

- 学部在学時に中国に留学した経験がある。
- 学部在学時にイギリスに留学した経験がある。所属のプログラムで来年、海外インターンシップに参加する予定である。
- 海外インターンシップ(シンガポール)に参加した。
- 学部在学時にオーストラリアに留学した経験がある。
- 学部在学時にアイルランドに留学した経験がある。
- 留学の希望はないが、海外での学会発表に興味がある。
- 学部在学時にアイスランドに留学した経験がある。今後はアメリカのPh.D課程への進学を目指している。
- 海外での在外研究及び学会発表に興味がある。渡航費に対して、大学のサポートがあればありがたい。
- 前期課程在学時にダブルディグリープログラムへの参加について検討したことがある。研究科内でプログラムに参加している学生もおり、プログラムに対して魅力を感じている。

質問6：希望進路に進むため、どのような学修又は準備を行っていますか。

(関連ワード：キャリアセンター、就職活動、進学準備など)

- 教員志望ではないが、学部在学時に教員免許状（一種）を取得していたため、大学院在学時に教員免許状（専修）の取得を考えている。企業への就職を考えているが、キャリアセンター主催の就職説明会に関しては、文系学生にとってはあまり対象企業が絞られていない印象が個人的にはあるため、現時点で参加する機会はない。
- 企業への就職が内定している。就職活動に関して、特段苦労することはなかった。
- 企業への就職を考えている。キャリアセンター主催の大学院生対象の就職説明会は理系学生対象の説明会が充実している印象があり、文系学生対象の説明会に関しても充実してほしい。
- 後期課程への進学を希望している。修士論文の執筆に併せて、2月の大学院入試の準備を行っている。
- 公務員への就職を予定している。就職活動の際は、キャリアセンターを利用した。
- 企業への就職を予定している。キャリアセンターの利用はしなかった。
- 国際機関への就職を希望している。
- 大学教員が希望進路であるが、採用までの経済的な面での不安を感じる。大学で開催されているプレFDは後期課程在学学生が対象であるが、後期課程修了後のポスドク（研究員）対象のセミナーに関しても充実してほしい。また、教員採用面接の際に参考になるセミナー等を開催して欲しい。
- キャリアセンター主催のセミナー等に参加して、情報収集を行っている。
- 留学生の場合、修了後、就職が決まらないとビザが失効してしまうので不安である。

• その他

●神戸大学の特色、学生の特徴について

- 総合大学のため、他の研究科のリソースを活用することができる。神戸大学生の特徴は、良い意味で内向的な学生が多い印象がある。
- 他大学からの進学だが、神戸大学生は勤勉で誠実な学生が多い印象がある。学生と教員との距離が近いと感じる。
- 国際色が豊かで、英語学修ができる環境が整っている印象がある。
- 丁寧な授業が多いためか、授業にまじめに出席する学生多い印象がある。

●コロナ禍における、学生同士の繋がりについて

- 入学ガイダンス時に、先輩・同級生と連絡先（LINE等）を交換し活用していた。
- コロナ禍以前に構築していたネットワークを活用できたので、コロナ禍においてもあまり困ることはなかった。

●コロナ禍における、経済的支援について

- コロナ禍においても、アルバイトは従前とかわらない状況であった。また、大学でTA・

RA に従事した。奨学金等情報については、大学 HP より入手していた。

- コロナ禍当初は、アルバイトの雇用がなくなり、苦勞したが、大学の支援制度を利用した。
- コロナ禍当初は、新たにアルバイトを探すことは困難だったが、大学の RA に従事した。また、科学技術振興機構（JST）の博士後期課程学生支援制度を活用した。
- 奨学金に関する情報については、積極的に周知してほしい。

●その他

- コロナ禍の影響か、所属コースの予算が無く、備品の調達等に苦勞しているようである。
- 制度等が変更された際に、研究科内で十分共有できておらず、教員によっては変更前の用語を使用しているケースがあり、まぎらわしいことがあった。

6. 今後の対応

本懇談会にて学生から得た意見のうち、対応可能なものについては適宜対応する。

